



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年1月30日

上場会社名 ブロードメディア株式会社
 コード番号 4347 URL <https://www.broadmedia.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 押尾 英明
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-6439-3983

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	8,433	1.6	376		481	701.8	350	
2019年3月期第3四半期	8,301	3.7	31	56.4	60	1.9	39	

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 504百万円 (%) 2019年3月期第3四半期 3百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	4.49	
2019年3月期第3四半期	0.51	

(注) 2020年3月期第3四半期の営業利益の対前年同四半期増減率は1,000%を超えるため「 」と記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	6,807	3,476	38.8	33.86
2019年3月期	6,557	3,003	35.6	29.92

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 2,641百万円 2019年3月期 2,333百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	7.9	450	169.5	510	151.2	340	103.6	4.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

詳細については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	79,147,323 株	2019年3月期	79,147,323 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	1,157,427 株	2019年3月期	1,157,427 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	77,989,896 株	2019年3月期3Q	77,989,896 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結損益計算書関係)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	12
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ132,497千円(1.6%)増加し、8,433,734千円(前年同期は8,301,236千円)となりました。「放送」「ネットワーク」は減収となりましたが、他の3つのセグメントが増収となったことで、売上高は増加いたしました。

営業利益は、376,771千円(前年同期は31,587千円)となりました。「スタジオ」「ネットワーク営業」が損失を計上した一方、「技術」「コンテンツ」は好調に推移いたしました。また、前年同期に発生した連結子会社である(株)釣りビジョンの架空取引被害に関連する費用約150,000千円が無かったこと等が要因となり、営業利益は大幅に増益となりました。

経常利益は、481,203千円(前年同期は60,012千円)となりました。営業利益の増加に加え、持分法による投資利益や受取保険金を計上したこと等が主な要因です。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、350,178千円(前年同期は39,910千円の損失)となりました。子会社における税金費用や非支配株主に帰属する四半期純利益が増加した一方、(株)釣りビジョンにおいて架空取引被害に関する損害賠償請求訴訟の一部について和解が成立し、特別利益122,700千円を計上したことや、過年度地方税の還付があったこと等が影響し、利益を計上いたしました。

(2019年12月31日現在)

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
コンテンツ	クラウドゲームサービス	<ul style="list-style-type: none"> クラウドゲーム機「G-cluster」の販売及びクラウドゲームサービスの提供 通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供 スマートフォン向けクラウドゲームアプリの提供 	ブロードメディアGC(株) Oy Gamecluster Ltd.
	デジタルメディアサービス	<ul style="list-style-type: none"> マルチデバイス向けコンテンツ配信サービス「クランクイン!ビデオ」、「クランクイン!コミック」の提供 エンタメ・情報サイト「クランクイン!」、「クランクイン!トレンド」等の企画・運営 モバイルサイト「ハリウッドチャンネル」等、複数サイトの企画・運営 	ハリウッドチャンネル(株)
	教育サービス	<ul style="list-style-type: none"> イーラーニングシステムを利用した単位制・通信制高校「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の運営 独自の教育メソッドによる日本語研修、日本語教師養成講座の運営 	ルネサンス・アカデミー(株)
放送	釣り専門チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> 衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給 映像の受託制作 	(株)釣りビジョン
スタジオ	制作事業	<ul style="list-style-type: none"> 日本語字幕制作、日本語吹替制作、文字放送字幕制作、番組宣伝制作 	ブロードメディア・スタジオ(株)
	番組販売事業	<ul style="list-style-type: none"> ハリウッド映画等のテレビ局への供給 	
	映画配給事業	<ul style="list-style-type: none"> 劇場映画の製作・配給、DVD/Blu-rayの発売、テレビ放映権の販売、VOD権の販売 	

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
技術	デジタルシネマサービス	・ブロードメディア®CDN for theaterの提供、及び上映システム の設計・販売及びレンタル	—
		・映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向け VPPサービスの提供	デジタルシネマ倶楽部(株)
	CDNサービス	・コンテンツを最適な形で配信する「CDNサービス」、「CMオン ラインサービス」、「セキュリティサービス」の提供	ブロードメディア・ テクノロジーズ(株)
	ホスピタリティ・ ネットワーク	・ホテルの客室、会議室へのインターネットサービスの提供、 機器の監視及び保守サービスの提供	
	その他ソリューション サービス	・グローバルに展開されたプライベートネットワーク「Aryaka」 の提供 ・対話型AIプラットフォーム「Passage AI」の提供	
ネットワーク 営業	ブロードバンド回線販売	・「SoftBank 光」サービスの販売 ・「SoftBank Air」サービスの販売 ・「Yahoo! BB」及びその他商材の販売	—
	ISPサービス販売	・「Yahoo! BB」ISPサービスの販売	
	携帯電話サービスの取扱い	・「ソフトバンク・モバイル」の携帯電話サービスや携帯端末の 取り扱い	
全社費用		・ブロードメディア(株)本社の管理業務(人事総務、財務経理、 法務等)及びグループ会社の統括管理	—
その他(注)		・中国における、釣り番組のコンサルティング、釣りポータル サイトの運営、釣り関連商品の販売、釣り大会の運営等	湖南快樂垂釣發展有限公司
		・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組 ソーシャルサービスの運営	ガラポン(株)

(注) 「その他」に含まれる事業は、全て持分法適用関連会社における事業であるため、報告セグメントには含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間における各セグメントの売上高及び営業損益の概況は、以下のとおりです。

①コンテンツ

「コンテンツ」セグメントは、クラウドゲームサービス、デジタルメディアサービス、教育サービスで構成されており、テレビ・PC向けの動画配信、スマホ・タブレット向けのコンテンツ配信及び広域通信制高校に至るまでの広範な事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ469,486千円(26.6%)増加し、2,237,643千円(前年同期は1,768,157千円)、営業利益は202,312千円(前年同期は34,861千円)となりました。

教育サービスは、入学生徒数が過去最高となったことで、増収増益となりました。デジタルメディアサービスは広告収入やVODサービスが好調に推移したことにより、売上が増加し黒字転換いたしました。また、クラウドゲームサービスは、コストの抑制等により営業損失が縮小いたしました。

②放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、並びにBS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ94,574千円(4.3%)減少し、2,098,286千円(前年同期は2,192,861千円)、営業利益は230,061千円(前年同期は147,063千円)となりました。

視聴料収入が減少傾向にあること等が影響し、減収となりましたが、継続して取り組んでいるコスト削減効果により増益となりました。

③スタジオ

「スタジオ」セグメントは、映画やドラマ等の映像作品の調達、日本語字幕・吹替制作から、その作品の配給、販売を行っております。

売上高は、前年同期と比べ150,183千円(9.0%)増加し、1,820,006千円(前年同期は1,669,823千円)、営業損益は、64,829千円の損失(前年同期は31,969千円の損失)となりました。

制作事業は受注が増加し、増収増益となりました。一方、番組販売事業はテレビ局向け番組販売が増加したものの、原価率が上昇しました。また、映画配給事業は苦戦が続き赤字幅が拡大いたしました。その結果、「スタジオ」セグメントの売上高は増加しましたが、営業損失が拡大いたしました。

④技術

「技術」セグメントは、デジタルシネマサービス、CDN(コンテンツ・デリバリー・ネットワーク)サービス、ホテルの客室、会議室へのインターネットサービス及びその他ソリューションサービスの提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ227,875千円(11.8%)増加し、2,162,448千円(前年同期は1,934,572千円)、営業利益は、370,994千円(前年同期は321,411千円)となりました。

CDNサービスの既存顧客向けの新たなソリューションやサービスが拡大したこと等により、増収増益となりました。

⑤ネットワーク営業

「ネットワーク営業」セグメントは、ブロードバンド回線(SoftBank 光、SoftBank Air)やISPサービス、携帯電話サービス等の販売代理店として、通信回線販売業者等の事業者を通じて販売活動を行っております。

売上高は、前年同期と比べ620,473千円(84.3%)減少し、115,348千円(前年同期は735,822千円)、営業損益は15,254千円の損失(前年同期は24,018千円の利益)となりました。

ブロードバンド回線の販売の苦戦が続いていることに加え、事業の再構築に時間を要していることから、売上高は大幅に減少し、営業損失を計上することとなりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(イ) 資産

流動資産は、テレビ向け番組販売の仕入に係る番組勘定が減少した一方、現金及び預金や売掛金が増加したこと等により、前期末に比べ186,913千円増加し、5,187,883千円となりました。固定資産は、リース資産が減少した一方で、ソフトウェア仮勘定や投資有価証券が増加したこと等により、前期末に比べ62,780千円増加し、1,619,680千円となりました。これらの結果、総資産は、前期末に比べ249,694千円増加し、6,807,563千円となりました。

(ロ) 負債

流動負債は、預り金が増加した一方、買掛金や前受金が減少したこと等により、前期末に比べ124,077千円減少し、2,730,043千円となりました。固定負債は、普通社債100,000千円を発行した一方、リース債務の減少や子会社における退職給付制度の変更により退職給付に係る負債が減少したこと等により、前期末に比べ99,044千円減少し、601,047千円となりました。これらの結果、負債合計は、前期末に比べ223,121千円減少し、3,331,090千円となりました。

(ハ) 純資産

親会社株主に帰属する四半期純利益350,178千円を計上したこと等により、純資産合計は前期末に比べ472,816千円増加し、3,476,473千円となりました。これにより、自己資本比率は38.8%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ356,295千円増加し、2,225,746千円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、プラス728,963千円(前年同期はマイナス245,600千円)となりました。前受金や仕入債務が減少した一方で、税金等調整前四半期純利益603,903千円を計上したことに加え、たな卸資産が減少いたしました。また、(株)釣りビジョンにおいて架空取引被害に関する損害賠償請求訴訟の一部解決金の受領や過年度法人税等の還付があったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローはプラスとなりました。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得や貸付による支出があったことや、新たな提携先の転換社債型新株予約権付社債を引き受けたこと等から、マイナス250,715千円(前年同期はマイナス3,669千円)となりました。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、普通社債100,000千円の発行による収入があった一方、リース債務の返済による支出があったこと等から、マイナス128,246千円(前年同期はマイナス49,101千円)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年10月30日の決算発表時に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,869,451	2,225,746
受取手形及び売掛金	1,100,483	1,331,175
商品及び製品	17,893	12,971
仕掛品	129,689	114,348
原材料及び貯蔵品	12,327	7,969
番組勘定	1,398,369	1,141,224
その他	485,762	359,765
貸倒引当金	△13,006	△5,317
流動資産合計	5,000,969	5,187,883
固定資産		
有形固定資産		
リース資産(純額)	279,823	279,013
その他(純額)	345,025	353,138
有形固定資産合計	624,849	632,152
無形固定資産		
のれん	74,109	63,072
その他	93,680	119,403
無形固定資産合計	167,789	182,476
投資その他の資産		
投資有価証券	365,183	442,674
破産更生債権等	546,962	548,101
その他	493,121	445,172
貸倒引当金	△641,007	△630,896
投資その他の資産合計	764,260	805,052
固定資産合計	1,556,899	1,619,680
資産合計	6,557,869	6,807,563

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	665,406	402,265
短期借入金	150,000	150,000
1年内償還予定の社債	50,000	70,000
未払法人税等	79,020	122,164
賞与引当金	148,174	75,764
その他	1,761,518	1,909,847
流動負債合計	2,854,120	2,730,043
固定負債		
社債	175,000	230,000
退職給付に係る負債	205,360	-
リース債務	264,370	211,299
その他	55,360	159,748
固定負債合計	700,091	601,047
負債合計	3,554,212	3,331,090
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,457,496	3,457,496
資本剰余金	2,846,622	2,846,622
利益剰余金	△3,829,531	△3,511,211
自己株式	△175,253	△175,253
株主資本合計	2,299,332	2,617,652
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,805	△1,993
為替換算調整勘定	37,249	25,382
その他の包括利益累計額合計	34,443	23,388
非支配株主持分	669,880	835,432
純資産合計	3,003,656	3,476,473
負債純資産合計	6,557,869	6,807,563

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	8,301,236	8,433,734
売上原価	5,346,527	5,311,833
売上総利益	2,954,708	3,121,900
販売費及び一般管理費	2,923,120	2,745,129
営業利益	31,587	376,771
営業外収益		
受取利息	897	920
受取配当金	636	671
貸倒引当金戻入額	58,514	17,041
持分法による投資利益	17,665	10,553
受取保険金	255	73,654
その他	12,867	36,012
営業外収益合計	90,836	138,853
営業外費用		
支払利息	35,740	24,868
その他	26,670	9,553
営業外費用合計	62,411	34,422
経常利益	60,012	481,203
特別利益		
受取和解金	-	122,700
その他	88,000	-
特別利益合計	88,000	122,700
特別損失		
投資有価証券売却損	42,392	-
特別損失合計	42,392	-
税金等調整前四半期純利益	105,620	603,903
法人税、住民税及び事業税	107,585	164,939
過年度法人税等	△9,672	△110,046
法人税等調整額	△3,185	33,279
法人税等合計	94,727	88,172
四半期純利益	10,892	515,730
非支配株主に帰属する四半期純利益	50,803	165,551
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△39,910	350,178

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	10,892	515,730
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,646	811
為替換算調整勘定	△953	△382
持分法適用会社に対する持分相当額	△11,934	△11,484
その他の包括利益合計	△14,534	△11,055
四半期包括利益	△3,641	504,675
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△54,444	339,123
非支配株主に係る四半期包括利益	50,803	165,551

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	105,620	603,903
減価償却費	212,402	198,056
のれん償却額	10,844	10,741
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,369,866	△17,800
賞与引当金の増減額(△は減少)	△56,426	△72,969
受取利息及び受取配当金	△1,533	△1,591
支払利息	35,740	24,868
持分法による投資損益(△は益)	△17,665	△10,553
投資有価証券売却損益(△は益)	42,392	-
受取和解金	-	△122,700
売上債権の増減額(△は増加)	△63,981	△230,226
たな卸資産の増減額(△は増加)	△270,247	282,749
仕入債務の増減額(△は減少)	△38,556	△263,559
破産更生債権等の増減額(△は増加)	1,354,610	△1,138
未払又は未収消費税等の増減額	24,721	48,133
その他の資産・負債の増減額	△201,723	79,189
その他	2,042	5,311
小計	△231,627	532,414
利息及び配当金の受取額	773	736
利息の支払額	△35,464	△24,579
和解金の受取額	-	122,700
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△27,533	184,691
その他	48,251	△87,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	△245,600	728,963
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△70,941	△115,533
投資有価証券の取得による支出	△10,000	△80,360
投資有価証券の売却による収入	91,000	-
貸付けによる支出	△29,000	△67,000
貸付金の回収による収入	11,250	11,250
その他	4,021	927
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,669	△250,715
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△60,000	-
社債の発行による収入	250,000	100,000
社債の償還による支出	-	△25,000
非支配株主からの株式取得による支出	△19,800	-
リース債務の返済による支出	△219,301	△203,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	△49,101	△128,246
現金及び現金同等物に係る換算差額	△504	2,488
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△298,875	352,490
現金及び現金同等物の期首残高	1,616,807	1,869,451
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	3,805
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,317,931	2,225,746

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 受取和解金の内容

当社の連結子会社である株式会社釣りビジョンが原告となり、東京地方裁判所において係争中であります「架空取引被害に基づく損害補償請求訴訟」の一部について、和解が成立し、和解の相手先より株式会社釣りビジョンに対し解決金が支払われました。これに伴い、解決金から訴訟費用等を差し引いた残額を特別利益に計上しております。

※2 特別利益 その他

2015年3月に当社は連結子会社である株式会社釣りビジョンの株式の一部を売却しておりますが、その際に前提とした株式価値算定には、2018年1月以降に開示いたしました株式会社釣りビジョンにおける架空取引被害に関わる将来収益の見込も含まれておりました。そのため、売却先と協議の上、本件取引による影響を控除した株式価値の再算定を行い、再算定後の株式売買価額について合意をいたしました。当該合意により、合意金額と減額等を合理的に見込んだ金額との差額を特別利益のその他として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 営業活動によるキャッシュ・フロー その他

2015年3月に当社は連結子会社である株式会社釣りビジョンの株式の一部を売却しておりますが、その際に前提とした株式価値算定には、2018年1月以降に開示いたしました株式会社釣りビジョンにおける架空取引被害に関わる将来収益の見込も含まれておりました。そのため、売却先と協議の上、本件取引による影響を控除した株式価値の再算定を行い、再算定後の株式売買価額について合意をいたしました。合意した株式売買価額の再算定額と当初の株式売買価額との差額の支払を営業活動によるキャッシュ・フローのその他で処理を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						全社費用	合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	計		
売上高	1,768,157	2,192,861	1,669,823	1,934,572	735,822	8,301,236	—	8,301,236
セグメント利益又は損失 (△)	34,861	147,063	△31,969	321,411	24,018	495,386	△463,798	31,587

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア株)の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						全社費用	合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	計		
売上高	2,237,643	2,098,286	1,820,006	2,162,448	115,348	8,433,734	—	8,433,734
セグメント利益又は損失 (△)	202,312	230,061	△64,829	370,994	△15,254	723,285	△346,513	376,771

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の費用であり、グループ本社(ブロードメディア株)の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。